

ま え が き

山 下 正 毅

『横浜国立大学留学生センター紀要』第5号がここに完成した。前号と同様にセンター教官および学外の研究者諸氏の多様な論考が寄せられた。これらがさらにいっそう各方面の関心を呼び、次号につながって行くことを期待する。

留学生センターは昨年（1997年）10月から、短期留学国際プログラム（JOY: Junior Year Overseas at Yokohama）を開始した。本学と研究・教育交流協定を結んでいる海外の大学から、1年以内の期間、原則として学部3年の学生を受け入れ、英語による授業を提供するものである。プログラムの実施に伴って、短期留学担当の専任教官2名が、新たにわれわれのスタッフに加わった。国際化は本学運営の基本方針のひとつであるが、留学生センターはこの面でまた新たな役割を担うことになった。

ところで私は昨年11月、外国人留学生委員会から派遣され、バルセロナでのヨーロッパ国際教育協会（EAIE: European Association for International Education）第9回年次総会に出席した。このページを借りてその状況を簡単に報告したい。

EAIE総会の会期は11月20日から22日までであった。しかし今年はそれに先だって国際教育交流会議（CIEE: Council on International Educational Exchange）の第50回記念総会が18日から20日まで行われ、二つの学会の連続協同開催という形を取る大規模な会議となった。会場はプリンセサ・ソフィア・ホテル、ヒルトン・ホテルおよびカタロニア・銀行であったが、プリンセサ・ソフィア・ホテルで最も多くのセッションが持たれた。そのほか、風格ある石造りのバルセロナ大学本部のホールで50周年記念レセプションが開かれ。（18

日)、カタロニアのロマネスクおよびゴシックの彫刻をはじめルネッサンスから近代までの見事なコレクションを持つ国立カタロニア美術館を併設したモンジュイック・ナショナル・パレスでも、両会議の合同夕食会がとり行われた(20日)。私は日程の都合で18日から20日までしか出られなかったので、CIEEのセッションの方をより多く見聞することになった。

18日は「国際教育交流における安全と責任」、「中国と西側の架け橋としての香港の将来」というセッションに出席した。前者においては国際紛争や国際テロ事件に際しての留学生、交換学生の動向把握や安全の確保といった、それほど頻繁に起こるとも思われない事態への対応が論ぜられ、後者においては教育の問題よりも返還後の政治や言論の自由の問題に大部分の報告と時間が割かれた。

19日のセッションでは「国際ビジネスと高等教育、第1部、第2部」に出た。企業あるいは取引のグローバル化の増大とともに、海外での学習・実習経験、外国語の習得、外国の歴史や政治に関する知識が、どの程度まで企業から要請され評価されるのか。それに対して高等教育機関はどのように対応するのか。これらの問題に関して、第1部で企業側、第2部で教育機関側の代表が報告を行った。

20日にはE A I Eのプレ・カンファランス・プログラムとして14のワークショップが開催された。このうち、ワークショップVII「日本の大学との協定交渉とその維持」に出席した。報告者(ドイツ、日本(私立大学))は、日本の大学においては意思決定をし実行に移すまでに多くの段階と委員会(会議)を経なければならないので、交流協定の実現ははなはだ面倒で長大な時間を要する作業となること、しかもそれは日本側に国際交流に理解と熱意のある者がいる場合に可能となること、この傾向は国立大学において著しいこと、等の意見を述べた。これはかなり当たっているところもあるので耳が痛かったが、後の討論(日本からの出席者の自己紹介)のところで、日本の国立大

学も最近の方針を改め状況が改善されて来ており、近年わが横浜国大を含むいくつかの国立大学で英語による授業を中心とする短期留学プログラムが開始されていること等を紹介した。その後、日本からの出席者一人一人に外国（ほとんどヨーロッパ）大学の代表者5、6名が割り当てられ、交流に関する話し合いを行った。私と話をしたのは、オランダ（ロッテルダム）、スウェーデン（ストックホルム）、スイス（ローザンヌ）、イギリス（リヴァプール）、ハンガリー（ブダペスト）からの出席者であった。

出席者が1000名位にはなると思われる二つの会議に出席して、海外の諸大学の国際化・国際交流に対する非常な熱意を感じ、各大学は専任のスタッフを置いて精力的にこれにあたっていることを知った。少なくとも我が大学は継続的にこの会議（E A I E）に代表を送ることが望ましいと思う。次回総会は1998年11月22日から24日までストックホルムにおいて開催される。